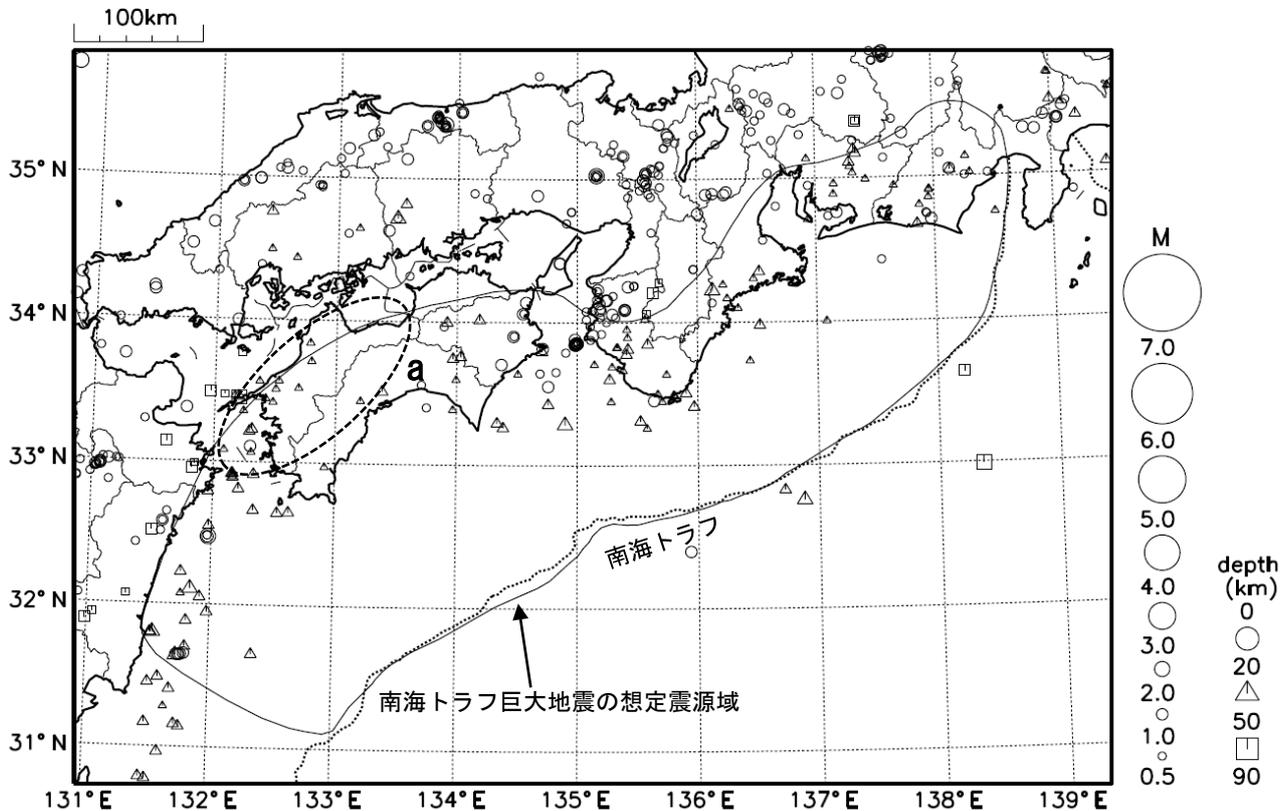


南海トラフ周辺の週間地震活動概況 No. 10

*震源時、震央地名、マグニチュード等は、再調査により修正することがある。

震央分布図（平成30年3月2日～3月8日）



“南海トラフ巨大地震の想定震源域で震度1以上を観測した地震もしくはM3.5以上の地震”及び“その他注目した地震”に「震源時、マグニチュード、最大震度」を付している（ $M \geq 0.5$ 、震源の深さ0～90km）。

[概況]

愛媛県付近のプレート境界深部で短期的ゆっくりすべりが発生していると推定される。

[主な地震活動]

- ・特に目立った活動はなかった。

[主な深部低周波地震（微動）活動^{*1}と地殻変動]

- ・2月21日以降、愛媛県から豊後水道（一部、伊予灘、高知県も含む）（領域a）を震央とする深部低周波地震（微動）を観測している。深部低周波地震（微動）活動とほぼ同期して、愛媛県、高知県に設置されている複数のひずみ計^{*2}に変化が現れている。これらは、プレート境界深部において発生している短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。（別紙参照）

[その他の地域]

- ・特に目立った活動はなかった。

※1：上の震央分布図には、震源決定精度が高い地震の震央のみを表示している。このため、震源決定精度が高くない深部低周波地震（微動）の震央は表示していない。

※2：国立研究開発法人 産業技術総合研究所のひずみ計。

愛媛県から豊後水道にかけての 深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり

2月21日以降、愛媛県から豊後水道(一部、伊予灘、高知県も含む)を震央とする深部低周波地震(微動)を観測している。2月21日に愛媛県南予付近で始まった活動は、26日午後以降、それまでの活動域より南西側に活動域が広がっている。28日午後以降、豊後水道でも活動が見られる。3月4日以降は、一連の活動域の北東端付近で活動が見られる。また、3月7日以降は、愛媛県東予・高知県中部でも活動が見られる。

深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、愛媛県、高知県に設置されている複数のひずみ計に変化が現れている。

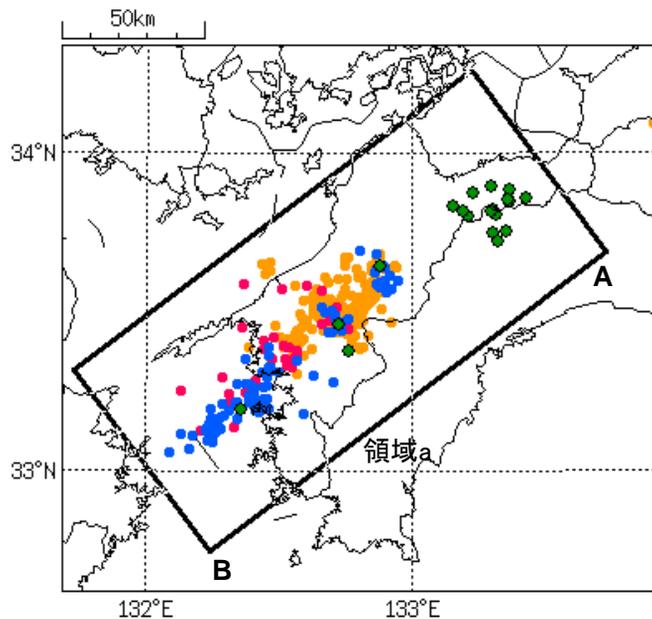
これらは、プレート境界深部において発生している短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

深部低周波地震(微動)活動

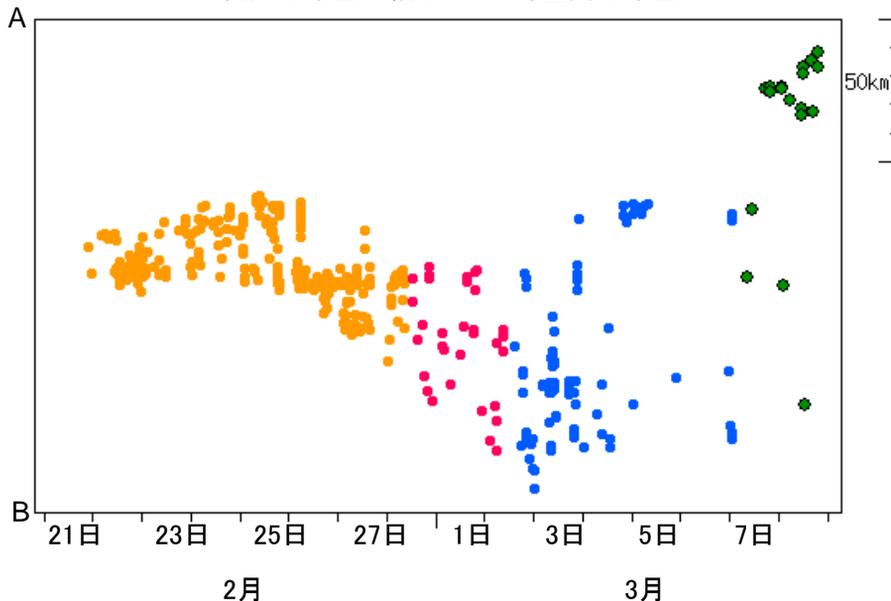
今回の活動

震央分布図(2018年2月21日～3月8日24時)

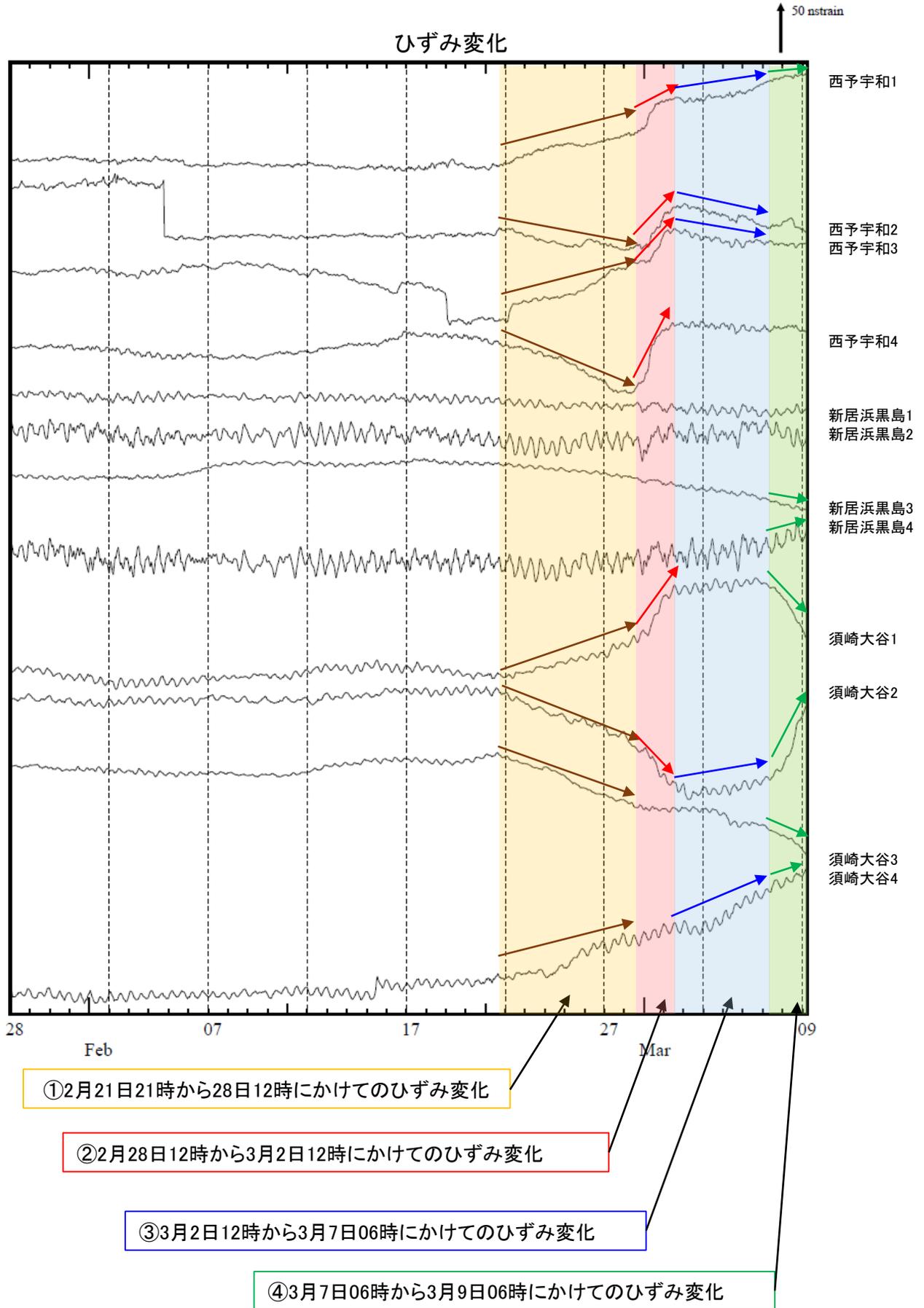
黄:2月21日～28日12時、赤:2月28日12時～3月2日12時、
青:3月2日12時～3月7日06時、緑:3月7日06時以降



震央分布図の領域a内の時空間分布図



ひずみ変化と断層モデル候補の推定(3月9日06時時点)



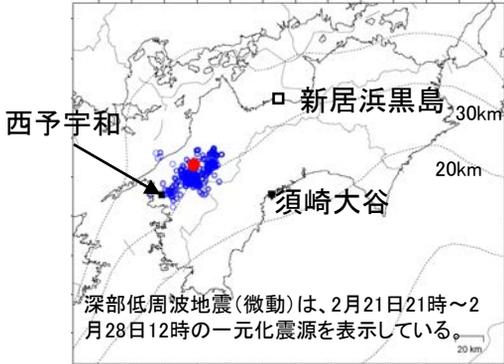
※すべり推定に使用した観測点(成分)を矢印で示している。

西予宇和、須崎大谷、新居浜黒島は産業技術総合研究所のひずみ計である。

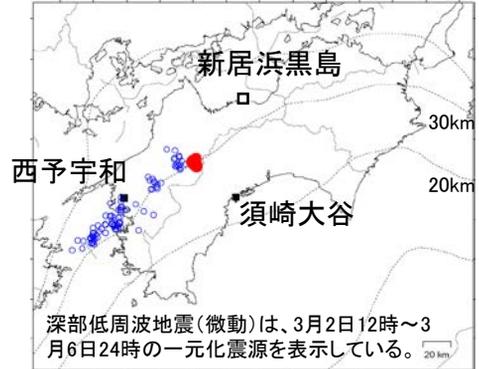
ひずみ変化と断層モデル候補の推定(3月9日06時時点)

ひずみ変化から推定された断層モデル候補

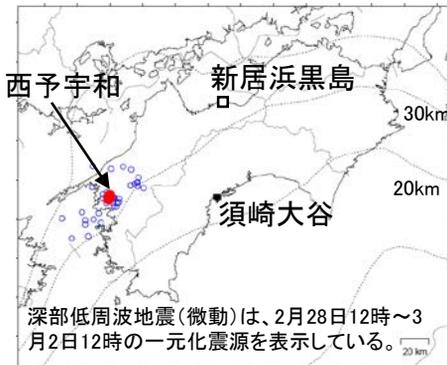
①2月21日21時～28日12時 Mw5.8程度



③3月2日12時～3月7日06時 Mw5.6～5.7程度



②2月28日12時～3月2日12時 Mw5.9～6.0程度



④3月7日06時～3月9日06時 Mw5.7程度



- 解析使用観測点
- 断層モデル候補の中心
- 低周波地震の震央

□解析に使用していない近傍観測点

点線は、Hirose et al(2008)によるフィリピン海プレート上面の深さを示す。

西予宇和、須崎大谷、新居浜黒島は産業技術総合研究所のひずみ計である。